

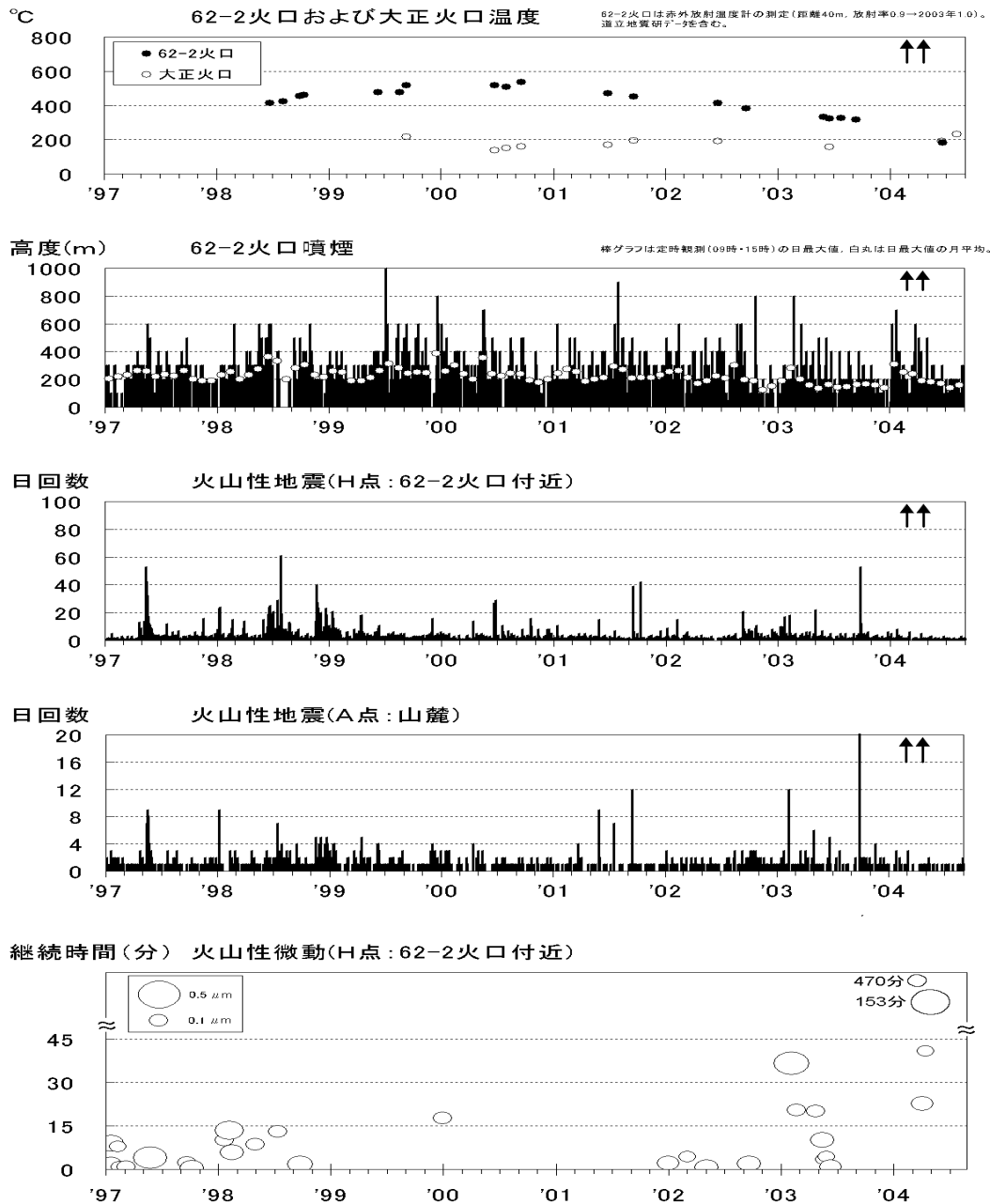
十勝岳

1 概況

62-2 火口の噴煙活動は依然活発で火口内は高温の状態を維持しており、火山活動はやや活発な状態が続いています。4月19日以降、火山性微動や有色噴煙は観測されていませんが、同様な現象は今後も繰り返し発生する可能性があります。

2 噴煙の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いています。噴煙は白色で高さは火口縁上おおむね 100~200mで経過しました。



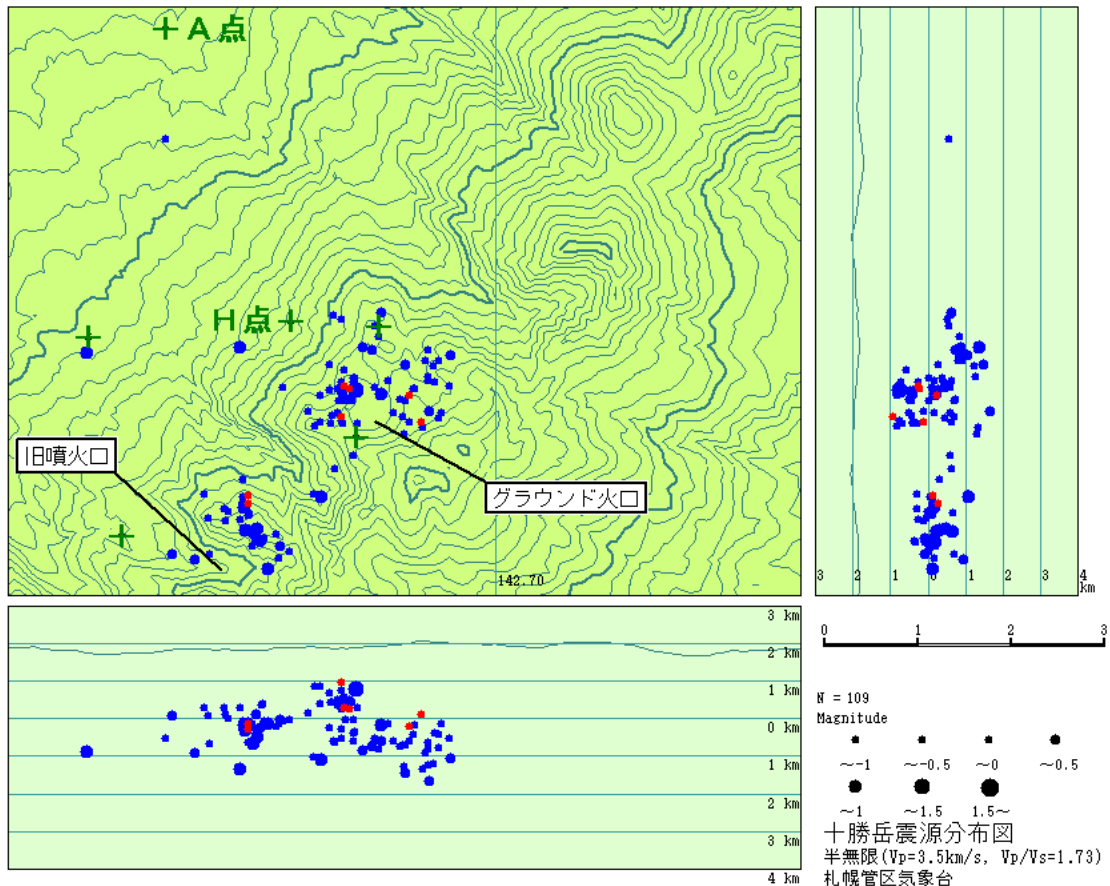
最近の火山活動経過図(1997年1月1日~2004年8月31日) 印は噴火

3 地震および微動の発生状況

今期間の火山性地震の回数は1日あたり0~3回で少ない状態が続いています。火山性微動は4月19日以降観測されていません。

地震・微動の月回数 (H点：火口付近の観測点 A点：山麓の観測点)

2003~2004年	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
地震回数H点	106	62	36	36	41	17	30	23	26	12	13	19
地震回数A点	40	16	9	12	7	6	5	5	7	2	4	6
微動回数H点	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0



十勝岳の震源分布図 (丸印：震源、+印：地震観測点)

赤丸は今期間(2004年8月1日~8月31日)に求めた震源を示しています。

青丸は前期間までの1年間(2003年8月1日~2004年7月31日)に求めた震源を示しています。

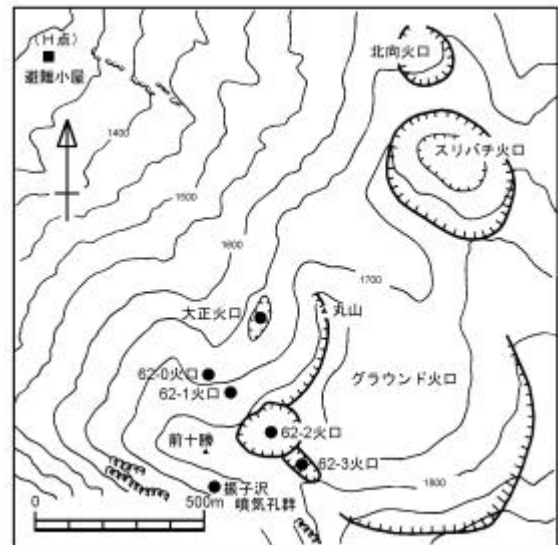
過去の震源分布は大きく分けてグラウンド火口周辺と三段山~旧噴火口周辺の浅部(海拔付近)に集中しています。今期間の震源もこれらの領域内に分布しています。

4 調査観測の結果

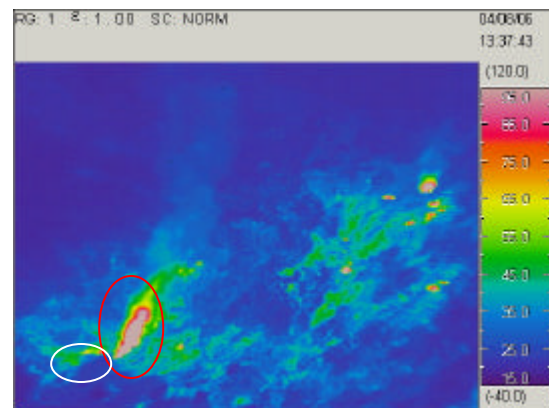
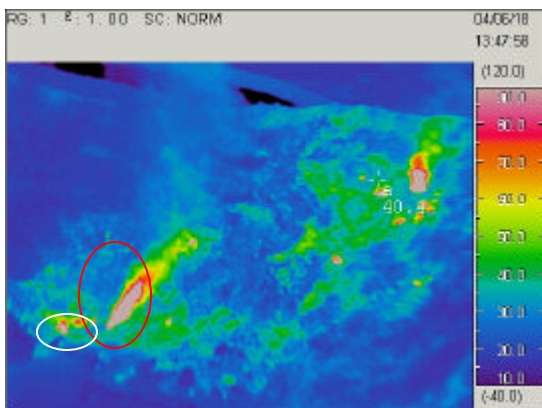
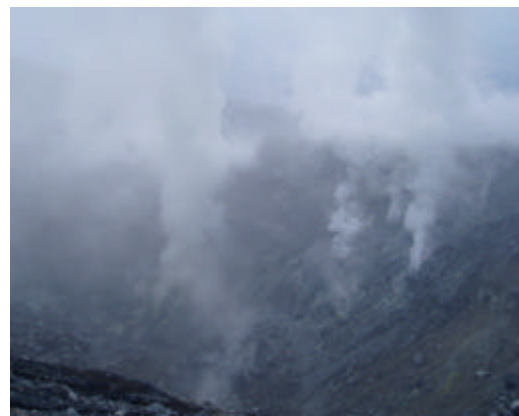
8月4～6日に調査観測を実施しました。
62-2 火口では、活発な噴煙活動が継続して
いました。その他の火口は、8月の状況と比べ
て大きな変化はありませんでした。

【62-2 火口】

活発な噴煙活動が継続しており、火口縁
では強い刺激臭が認められました。
西側火口底には、6月の調査観測時と同様に
非常に活発な噴気孔が存在し、高温で透明
な火山ガスを勢いよく噴出していましたが、
その南側に分布する噴気孔の活動は6月と
比べて弱まっており、赤外熱映像装置*によ
る観測でも、高温部分の縮小が認められま
した。



十勝岳火口周辺図



赤外熱映像観測による62-2火口の表面温度分布

赤丸：西側火口底の活発な噴気孔、白丸：活動が弱まった噴気孔

(左：2004年6月18日 右：2004年8月6日)

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

【62-2 火口周辺の地熱域】

62-0 火口、62-1 火口、62-3 火口、振子沢噴気孔群では、弱い噴気が認められました。62-0 火口、62-1 火口の赤外熱映像装置*による観測では、高温部分の拡大や新たな地熱域は認められませんでした。



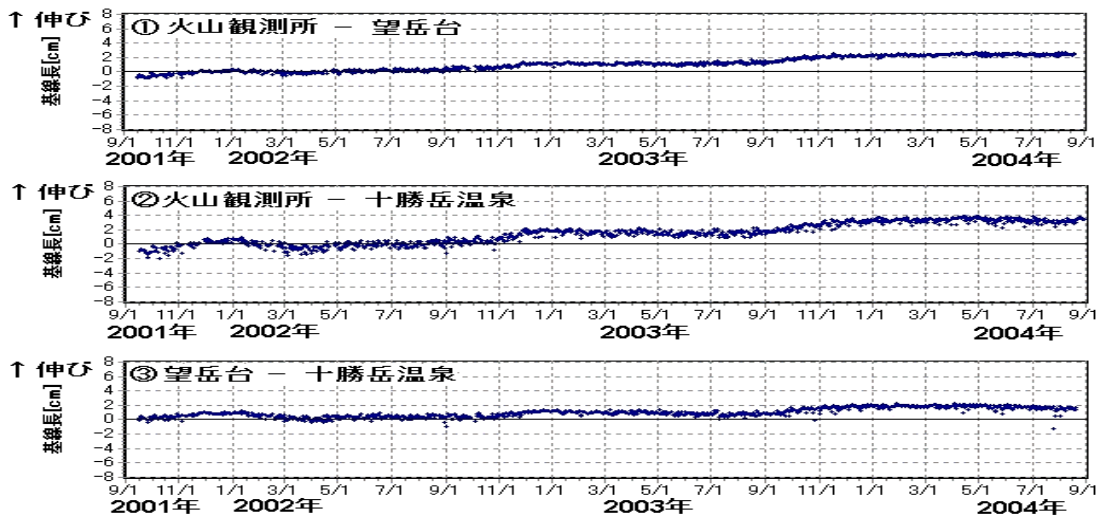
62-2 火口と大正火口(北側から撮影)

【大正火口】

東側火口壁上部のやや活発な噴気孔における噴気の最高温度は約 230 (6月約 190)で噴気の状態や変色域に大きな変化は認められませんでした。

5 地殻変動の状況

西麓での GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化(2001年9月13日~2004年8月31日)

